



雪国福井（JR福井駅前）

一生勉強 一生感動 一生青春 (第61号)

第九回いきいき会 新年会が開催
寺岡弘文
一月二十五日(木)
に、福井いきいき会
の第九回新年会がウ
エルアオッサ三階宴
会場において開かれ
ました。雪が心配さ
れましたが、奇跡的
に青空も顔を出し、
十一時から受付が始
まりました。五十名
の参加を得て、十一
時半に小林久子会長
の開会宣言によって
幕が開きました。

福井いきいき会新聞

2024年2月
発行：福井
いきいき会
福井市中央1
9-29：0776-
28-6464
発行責任者
寺岡弘文

司会はベテランの井上
清一、澤村玲子両氏で、
先ずは祝賀の重厚な尺八
演奏(道場岳富氏)が、
次に「松竹梅」の華麗な
吟舞(鈴木文子氏)と続
き、最後に小林久子氏が、
菅原道真の「東風吹かば
：」と山岡鉄舟の「晴れ
てよし：」を朗々と吟じ
られました。司会の井上
氏からの健康術のお話
「一無二少三多」(喫煙
をまず無くし、食と酒の
二つを少なめにし、動き
と休みと人との接触の三
つを多くする)には、一
同頷いていました。



写真は上から、落語を披露する佐々木氏、抽選を喜ぶ寺岡氏、会場全体の様子

十分には演じられました。
次に合唱サークルによつ
て名曲三曲(お猿のかご
や、バラが咲いた、東京
ブリウギ)が、指導の和
田真美先生のピアノ伴奏
によって、趣向を交えな
がら歌われました。次に、
芸能倶楽部による「麦畑
ラブラブダンス」がコ
ミカルに演じられ、拍手
喝采を浴びました。短め
の休憩後、オーラルフレ
イル予防体操をしてから
後半に移りました。
後半の出し物はカラオ
ケで、「北の旅人」(田
中勝美、竹下修両氏)、
「雪椿」(鈴木ふじ子、
新田ヨシエ両氏)、「恋
はやさし野辺の花よ」
(佐々木晃一氏)、「二
人の大阪」(古市千津子、
吉岡芳夫両氏)、「知床
旅情」(竹内貫、定池徳

例会講演の概要
越前出自の継体天皇

福至上主義が根付くブー
タンという国。国民の生
活は豊かで、独自の文化
や伝統が息づいている。
美しい寺院や祭り、親し
みやすい人々が魅力です。
案内は、吉岡副会長

令和6年2月の行事予定表

Table with columns: 日曜日, 曜日, 活動場所, 開始時間, 行事名. It lists various events from February 1st to 29th, including board games, discussions, and performances.

健康麻雀は、3FのA室で毎週火、金、土、日の13時から開催

令和六年二月の行事予定
例会
人生百年時代を
今日も生きる
講師 中村加津世氏
人生百年時代、定年退
職をし悠々自適な人生を
送れるという時代では無
くなりまして。自分が大
切にしている価値観を明
らかにし、どう生きるか
を考えていきましょう。
会場が、アオッサでは
なく、ハピリン4階の会
議室なので、ご注意ください。
歴史を楽しむ会
平泉澄と武生の国府

講師 井上清一氏
皇国史観の代表者と
われは、勝山の平泉寺白山
神社のお生まれです。戦
後は東京から戻られて勝
山に逼塞されていまして
が、その時に書かれた
「武生の国府」という冊
子には、故郷の福井のこ
とが書かれています。国
府とは奈良平安時代に朝
廷の出先機関が置かれた
中心地ですが、現在の都
道府県の中心地とはかけ
離れた場所にありました。
冊子に書かれていた福井
のことや、時代によって

栄える中心地が移動する
ことなどをお話したいと
思います。
洋上風力発電って
なぜ有望なの?
経済活動や日々の生活
に欠くことができない電
気は、火力、水力、原子
力発電などで作られてい
ますが、CO2を発生しな
い自然エネルギー利用の
太陽光や風力発電などを
増大するのが政府方針に
なっています。その中で、
特に期待されているのは
海上で発電する洋上風力
発電です。なぜ期待され

るのか、課題はないのか
などについてお話しします。
講師は、吉岡副会長
映画観賞会
二月六日、吉岡担当の
洋画の上映候補は、パリ
の恋人、ロビンソン漂
記、アラバマ物語です。
一月二十日の佐々木担当
の邦画の上映候補は、豚
と軍艦、空の大怪獣ラド
ン、おくりびとです。
見たい映画を選べる映
画観賞会にぜひご参加く
ださい。
インターネット世界旅行
ブータンへ行こう
広大な自然があり、幸



ブータン伝統建築美の美しい城

令和五年十二月二十一日 (木)に開催された題記の講演について、その概要を報告いたします。

講師は、県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館長を務められた青木氏で、最初に過去六十年間にわたって地域史の研究に携われたきっかけや県庁勤務時代の充実した研究活動の経緯を話されました。次いで、寒い時期にもかかわらず、上着を脱がれたほどの熱の入った講演で、主題の継体天皇の出自や時代背景、その治績、越前が



講演中の青木氏

は大国だったことが分かったそうです。ちなみにこれらの古墳は、講師の青木氏が発見されたとのこと。越前は、朝鮮半島と、ヒスイなどの宝石、米や塩などの特産品の交易で、富を築き越前を凌駕するようになっていました。

継体天皇の前には、雄略天皇という暴君がいました。が評判が悪く、地方の大臣から天皇をとの動きが出てきたので、越前の男大迹王若狭の豪族、母方の親族が協力して、継体天皇を即位させました。最初は、越前にいきましたが、淀川水系をたどって四回の遷都を行い、二十年后にやつと、大和に入る事ができました。これは大和には反継体勢力の葛城氏がいて身の安全に懸念があったためとのこと

でした。継体天皇の実績としては、新百済外交を進め、儒教・仏教を導入、大和政権の地方支配の強化、皇太子制の導入などがあるとのこと。最後に、継体天皇が導入した儒教の教えである徳が大事だとして、ご自身も、五徳のある人、すなわち温かい人、良いことをする人、頭が低い人、質素な人、人に譲る人を目指したいと締めくくられました。

(文責 吉岡芳夫)

サークル活動報告

令和六年最初のサークル活動は、一月四日(木)の囲碁大会でした。以下は、囲碁将棋サークルの主宰者中野ふさるさんのレポートです。

新年囲碁大会開かれる

中野 ふさる

一月四日、新型コロナが始まってから四年目で、ようやく囲碁大会が開けるようになりました。今回は、第四回の新年囲碁大会でしたが、元旦に発生した能登半島地震の余震の心配や、雪が降るのではないかといた心配で、前夜はよく眠れ



新年囲碁大会の様子

ませんでした。しかし、当日は幸い良い天気になりました。競技開始時間十分前には参加予定者全員が元気に集合し、新年の挨拶や、能登半島地震についての会話を交わしていました。

五段から五級まで十人の参加者の対戦表も出来て、十時に大野さんが対戦実施要領を説明され、早速競技が始まりました。会場が熱気を帯びてきた十一時半に、昼食の時間が来ました。用意した弁当にお酒、ビールも出され、和やかな時間を過ごしました。競技が再開され、午後三時ごろ、競技は終了し、順位が決まりました。入賞者は、優勝 長谷川彰さん、準優勝 豊島一朗さん、第三位 薬師

「卓話を聴く会」の

今年初回に参加して

澤村 玲子

一月六日、今年最初の「卓話を聴く会」に参加しました。新年の挨拶に併せて、思いがけない元旦午後の能登地震の残酷さをも口にしてのスタートでした。参加者からのスピーチは無かったので主宰者の大野勉氏が、親鸞聖人と一休さんについて話されました。全

親鸞聖人と一休さんの関わりが想像出来ず興味深く臨みました。

親鸞聖人は四歳で父、八歳で母と死別。九歳の時自ら慈円に弟子入りをお願いしました。二十九歳迄比叡山延暦寺で厳しい修業を積みましたが悟り得られず出寺します。そして、京都で法然上人に出

会い弟子入り。その頃恵信尼公と出会い結婚。法然上人の教えは、裾野広く沢山の人が帰依したため興福寺や延暦寺など他宗の強い反発、嫉妬にあい、ついには朝廷の弾圧を受け親鸞聖人は越後(新潟県)法然上人は土佐(高知県)へと流刑。親鸞聖人三十五歳の時でした。

五年後刑を赦されましたが、法然上人の死を知り京都には戻らず関東へと向かい、そこで約二十年間滞在。常陸(茨城県)の稲田を中心に念仏を広く伝えていきました。「教行信証」はその頃書

き始めたようです。六十歳頃関東から京都に戻ります。念仏の受け止めをめぐり様々な混乱が生じ、中でも誤った教えを広めた長男の慈信房善鸞と親子の縁を切ると云う出来事もありました。

親鸞聖人は「教行信証」を書き進めると共に終生を同じうに手紙や書物を送り念仏の教えを伝え続け、九十年の生涯を終えました。親鸞聖人に関する短文の中に一休さん作の短歌が紹介されています。一休さんは室町時代の臨済宗の僧で一休宗純幼少時の愛称です。十歳前後にみせた頓知の知恵話が、今尚時代を越えて私達の記憶にも有りま

す。当時の平均寿命は六十歳前後でしたが八十八歳迄長生きしました。親鸞聖人も一休さんも頗る長寿なのには驚きました。長寿なのは驚きました。一言の中に記された短歌の一つを紹介いたします。世の中の娘が嫁と花咲いてかかあと

暮んで婆と散りゆく 主宰者の大野氏がライフワーク的に学ばれておられるご様子うかがえる熱意込めてのお話でした。これまで参加されて無い方も、一度参加されショートスピーチを気楽にされてみませんか。二月を楽しみにしています。

川柳同好会

一月の優秀句 赤ちゃんすぐ見れる

能登の人 思えば 辛いなど言えん

誰だっけ 笑みもて 会話 今の方

嫁強し 我が家の円満 たもつてる

種まくぞ 善因善果 忘れずに

欲しいもの 視力体力 お友達

吉岡 芳夫 澤村 玲子 高谷三恵子 吉田美恵子 大野 勉 新田ヨシエ

老いてこそ足腰だけとは スクワット 上坂 征夫

賀状から 飛び出しそな 昇り龍 増永 一夫

笑顔から 集う楽しみ 伝わりて 千田 節子

元旦は 手が休まらぬ 蟹で屠蘇 小坂 武士

きの子採り誰にも 明かさぬ場所にある 小林 久子

令和五年の 川柳作品集の発行

川柳同好会では、令和五年一年間の会員の優秀句をまとめた小冊子「令和五年 川柳作品集」を発行しました。配布ご希望の方は、主宰者の小坂武士氏にご連絡ください。

また、当会のホームページのサークル活動実施報告書のとおり、同じ内容の作品集を別の様式で掲載していますので、ご覧ください。

訃報

当会設立当時からの会員で、永く運営委員として当会の発展に貢献された折尾敏和氏が病氣療養中薬石の効なく一月十一日に永眠されました。

折尾氏は、繊維会社の二チメンに入社された後、商社マンとして大活躍されましたが、温厚なお人柄で、当会では例会や研究会で講演をしていただいたほか、健康麻雀のお世話や合唱、カラオケを楽しんでおられました。

また、令和元年から三年末までは当会の会計を担当され、会計を正確に処理する方法を確立されました。

ここに、当会に対するご貢献に対し、心から感謝申し上げます。ご冥福をお祈り申し上げます。



故折尾敏和氏